

## オーディオ実験室収載

### モーツアルト盤を聴く (59) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(59)—

#### 1. 始めに

前報(58)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回からヴァイオリン協奏曲になります。

##### PHILIPS SFL-7594

モーツアルト ヴァイオリン協奏曲 1 番変ロ長調

ヴァイオリン協奏曲 4 番ニ長調

アルトゥール・グリュミオー (ヴァイオリン)

コリン・デイヴィス指揮ロンドン交響楽団

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

PHILIPS 盤ということで、RIAA、正相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

グリュミオーのヴァイオリンは艶のある音で情緒的に表現しています。デイヴィス指揮ロンドン交響楽団も端正で爽やかな演奏で、これを支えます。これらが一体となって優雅なモーツアルトの演奏となっています。

#### 3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレック、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、グリュミオーのヴァイオリンの艶のある音と爽やかなデイヴィス指揮ロンドン交響楽団の演奏が的確に把握できました。

以上